

平成28年度 学校評価結果報告

徳島県立川島中学校

◆はじめに◆

本校では平成28年度当初に作成しました「学校評価計画」に基づき、教育活動を進めてまいりましたが、このたび、その評価結果をまとめましたので報告いたします。
評価にあたりましては、1月に実施しました「学校評価アンケート」などを通じ、多くの貴重な御意見御感想をお寄せいただき、誠にありがとうございました。アンケート結果は3月にとりまとめ、全教職員で検討し、関係者評価委員会を経て、教育活動の課題などを明らかにし、平成29年度の学校運営、教育方針、重点課題の設定などに活用させていただいております。

今後とも、こうした学校評価結果を踏まえ、教育活動の充実・発展に努めてまいりますので、引き続き御理解と御協力をいただきますようお願いいたします。

平成28年度

学校評価 総括評価表

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題	
		評価指標		評価指標による達成度		総合評価		
<p>(1) 中高一貫教育を活かした系統的な指導体制の確立</p>	<p>① 学校運営面での中高連携の促進に努め、異年齢集団における社会性の育成を進める。</p> <p>② 6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。</p>	<p>① 中高合同の教育課程検討会や教科会を定期的に開催し、生徒の現状に応じた教育活動を検討する。</p> <p>② 儀式的行事や体育祭・文化祭だけでなく、必要に応じて行事等を中高合同で実施する。</p> <p>③ 特別活動などで、学年をまたがった活動を取り入れる。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を年6回、また中高合同の教科会・授業研究会を2回実施した。</p> <p>② 例年通り、入学式などの儀式的行事や体育祭・文化祭を行い、アンケート結果から、保護者・教職員のそれぞれ90%(前年度90%)・100%が、高校生との理解を深めるのに有効と回答している。ただし生徒の数値が78%(前年度82%)と減少しており、今後の行事のあり方について検討も必要である。</p> <p>③ アンケート結果から生徒の95%(前年度95%)が、6年間を見通した特色ある教育を行っていると回答しているが、保護者は90%(前年度95%)、職員は87%(前年度92%)とその割合が下がっている。これは「しっかりした学力をつけられる」の項目でも同様の傾向が見られ、次年度に向けた対策を講じる必要があると考えられる。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を年6回、また中高合同の教科会・授業研究会を2回実施した。</p> <p>② 例年通り、入学式などの儀式的行事や体育祭・文化祭を行い、アンケート結果から、保護者・教職員のそれぞれ90%(前年度90%)・100%が、高校生との理解を深めるのに有効と回答している。ただし生徒の数値が78%(前年度82%)と減少しており、今後の行事のあり方について検討も必要である。</p> <p>③ アンケート結果から生徒の95%(前年度95%)が、6年間を見通した特色ある教育を行っていると回答しているが、保護者は90%(前年度95%)、職員は87%(前年度92%)とその割合が下がっている。これは「しっかりした学力をつけられる」の項目でも同様の傾向が見られ、次年度に向けた対策を講じる必要があると考えられる。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>生徒・保護者のアンケート結果では、全体の9割近くが、本校の中高一貫教育について肯定的である。特に生徒・保護者とも高い割合を保っているが、児童数減少に伴い志願者数も減少傾向にある現状がある。また志願者の学力は開校当初に比べ下がってきており、これまでのような学校目標だけでなく、現在の生徒の層に合わせた対策が必要である。また今後に向け、より具体的に本校の目指す学校像を明確にし、生徒・保護者に伝えていくことが必要である。</p> <p>今年度も、数学の先取り学習などの特色ある取り組みに加え、高校生と中3生が学習面で交流するなど今後につながる試みも行われており、継続して取り組んでいきたい。</p>	<p>○ 6年間を見通した特色ある教育を行っている、生徒や保護者の約9割から指示されている。中高合同の教科会・授業研究会を年2回行った、高校生が中3生に学習指導したり、先取り学習の実施は大切である。</p> <p>○ 数学の先取り学習や中高生が共に参加する学校行事などにより確立されつつあると思うが、目指す学校像、教育の目標(学力、進路の目標)をもっと明確に示してはどうか。</p> <p>○ 中学入学時から可能な範囲で将来に向けての夢を持つようにする。それが実現しなくても、ワンランク上の夢を持つことは大事なことだと思う。</p>	<p>○ 前年度同様、数学の先取り学習に関する課題はあったが、中高一貫教育推進委員会等において検討し、続き継続して先取り学習を実践した結果、先取りによる効果が得られたと考える。特に昨年度の「言語活動の充実に関する実践研究指定」もあり、従来のSAに加え、高校生による中学3年生の学習指導など、異年齢間の交流が促進されており、今後も継続して取組を深めた。</p> <p>また、高校への進学に関しては、より一層中高一貫教育の理解を得るように努める。</p> <p>一方で、生徒の現状に合わせて、本校の取組を変えていく必要性もあると考える。</p> <p>本校の目指す学校像をこれまで以上に明確にし、生徒・保護者に伝えていくことが必要である。</p>	
		<p>活動計画</p>	<p>① 併設高校と連携し、教科会を通して生徒の現状に応じた6年間のシラバスづくりをする。</p> <p>② 中学生・高校生がともに参加する共通の学校行事を設定し、積極的な参加を促す。</p> <p>③ 生活オリエンテーションや球技大会など、学年の枠を越えた活動を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p>				<p>① 中高一貫教育推進委員会を年6回実施し、一貫教育における懸案等を話し合った。特に本年度は、中高合同の教科会の他、授業研究会を実施し、互いの授業参観における感想やアクティブラーニングについての話し合いを行った。</p> <p>② 例年通りに入学式、対面式、身体計測、始業式・終業式(学期ごと)、全校集会(毎月)、文化祭・体育祭、人権教育講演会、芸術鑑賞会等を中高合同で行った。</p> <p>③ 昨年度に引き続き、高校生による中3生への学習指導が行われた。</p>

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度	総合評価	
<p>(2) 確かな学力の充実と指導力の向上</p>	<p>① 個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習の促進に努める。</p> <p>② 学力向上を図る研修の充実や、授業の創意工夫に努める。</p>	<p>① 「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが得意である」と回答する生徒の割合が50%以上。</p> <p>② 高校教員や中学校教員による授業を1人2回以上見学し、授業力の向上を図る。</p> <p>③ わからないことや疑問に思うことは、自ら調べたり教員に質問したりしている生徒の割合が80%以上。</p> <p>④ 毎日の家庭学習時間が2時間以上をめざす。</p> <p>⑤ 読書の推進に努め、年間読書冊数を一人5冊以上。</p>	<p>アンケート結果</p> <p>① 1年生39%、2年生24%、3年生30%の生徒が、「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが得意である」と回答している。</p> <p>② 大多数の教員が、2回以上見学した。</p> <p>③ 1年生61%、2年生71%、3年生67%の生徒が、「わからないことや疑問に思うことは、自ら調べたり教員に質問したりしている」と回答している。</p> <p>④ 1年生21%、2年生31%、3年生25%の生徒が、毎日の家庭学習時間が2時間以上と回答している。</p> <p>⑤ 1年生49%、2年生47%、3年生46%の生徒が、年間読書冊数が5冊以上と回答している。</p>	<p>総合評価</p> <p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>教員の93%が、言語活動の充実を図り、授業の工夫・改善を行っている。また、大多数の教員が授業見学を行い、授業力の向上に努めている。しかし、取り組み方に教員間の個人差があるのは否めない。また、毎日の家庭学習時間2時間の目標は、生徒の26%にとどまっております。改善指導が必要である。</p>	<p>○質問タイムや補充学習が生徒・保護者から9割近く評価されているが、塾などがあるためか家庭学習時間が2時間以下の生徒の割合が大きい。自ら調べたり質問したりすることが、家庭学習の安定に結びついてほしい。</p> <p>○読書は必要と考えるが、家庭ではテレビや漫画、ゲームに時間を使っている。文字に親しむ習慣をつけたいと思う。</p> <p>○家庭での学習時間の確保はなかなかむずかしいところはあると思うが毎日続けることが大事なことで、いきなり2時間というのではなく毎日最低でも1時間は必ずして、順次に時間数を増やしていく。至誠ノートを毎日の学習に役立てるのはいいことだと思う。</p>	<p>○教員は、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業のいっそうの推進・継続を図り、生徒の主体的・協働的な学びを重視し、授業力の向上に努める。</p> <p>○「質問タイム」や「補充学習」に対する生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な実施方法を考える。</p> <p>○家庭学習の習慣を身につけるために、決まった時間に決まった場所で学習に取り組む方法等を推進する。</p> <p>また、携帯電話やインターネットの使用と使用時間にも問題が多く、学習への弊害がある。これらは、家庭との連携を取りながら推進・改善したいと考える。</p> <p>○本校生徒は、読書の楽しさや喜びを感じており決して「読書離れ」はしていないと考える。今後は、読書の啓発を図ることで目標を達成したいと考えている。また、身近な教室の学級文庫の図書を増やしたり、良書を購入したりしたい。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>① 指導方法の工夫、改善のための研究授業及び授業見学を実施する。また、全ての教科の授業で、根拠を明確にして説明したり、伝え合ったりするためにホワイトボードを活用する場面を設定し、言語活動の充実を図る。</p> <p>② 効果的な「質問タイム」や「補充学習」を実施し、個々の生徒の力を伸ばす。</p> <p>③ 主体的な学びの力を育成するために、家庭学習の習慣づけと自主学習ノート「至誠ノート」を工夫・充実させる指導を図る。</p> <p>④ 読書活動を推進し、表現力と幅広い視野を育成する。</p> <p>⑤ 体験的な活動を計画的に実施するとともに、外部との連携を積極的に取り入れることで社会性を育て、問題を解決する能力を養う。</p> <p>また、オーストラリア・パースの生徒との交流学習や国際性を高める活動を実施することで、言語能力の育成と個々の進路実現に役立てる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>アンケート結果</p> <p>① 93%の教員が、授業で「根拠を明確にして説明したり、伝え合ったりするためにホワイトボードを活用する場面を設定し、言語活動の充実を図っている」と回答している。また、86%の生徒が、「わかりやすく授業が工夫されている」と回答している。研修の実施や、授業の工夫が「学びの力」につながっている。</p> <p>② 87%の生徒・88%の保護者・80%の教員が、「質問タイムや補充学習は学力向上に役立っている」と回答している。</p> <p>③ 87%の生徒が「至誠ノート」を提出しており、家庭学習の習慣は身に着いている。</p> <p>④ 朝の学習の時間に「読書の時間」を設定することで、読書活動を推進した。</p> <p>⑤ 1年生はYMCA体験学習、2年生は藍染め体験・識字学級生との交流学習、3年生は大学視察を実施した。オーストラリア・パースから生徒が来校し、1年生は剣道、2年生は阿波文化、3年生は茶道を紹介し交流を図った。また、台湾から修学旅行生が来校し、交流を図った。</p>	<p>定期テスト前に行われる「質問タイム」や「補充学習」は学力向上に役立っていると回答した生徒は87%、保護者88%であるが、教員は80%にとどまっております。教員は何らかの改善の必要性を考えている。</p> <p>真面目な生徒が多く「至誠ノート」の提出率は高いが、主体的な家庭学習のために役立っているかは十分でないと考えられる。</p> <p>読書冊数の達成率は、昨年に比べると1、2年生が大きく低下している。</p> <p>体験活動は本校の柱であるため、今後も推し進めたい。</p>			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
<p>(3) 生徒の能力・適性に 応じた進路の実現</p>	<p>① 進路指導プログラムの改善・充実を図り、 進路達成意欲を高める。</p> <p>② 三者面談・年次PTAなどにより保護者との連携強化に努める。</p>	<p>① 「質問タイム，補充学習（全学年）， スペシャルアプローチ（3 学年対象） は役に立っている」と思う生徒の割合、 75%以上をめざす。</p> <p>② 6年間を見通したキャリア教育を実施するとともに、それぞれの発達段階に応じたさまざまな体験活動を実施する。</p> <p>③ 「進学説明会」,卒業生を迎えての授業「ようこそ先輩」の実施を通して、 高校教育への理解を深め,今後の進路指導につなげる。</p>	<p>アンケート結果</p> <p>① 生徒の 87%，保護者の 86%が質問タイム・ 補充学習，スペシャルアプローチが有効であると回答した。</p> <p>② 生徒の 89%，保護者の 88%がキャリア教育や 様々な体験活動が進路の選択に役立っていると回答した。</p> <p>③ 生徒 85%，保護者 83%が高校からの進路説明会や、 併設高校に在籍する高校生と語り合う機会「ようこそ先輩」が 進路の選択に役立っていると回答した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>ほとんどの項目で昨年度と数値はほぼ 同等であり、本校の進路指導におおむね 理解をいただいていると思われる。特に 様々な体験活動においては生徒・保護者 ともに高い数値が見られる。質問タイム・ 補充学習については、生徒の数値が昨年 年度よりも下がっているものの、保護者の 数値はあがっており、目標に近いもので あった。</p> <p>また、高校説明会は、数値をみると昨 年度より若干さがってはいるが、生徒・ 保護者ともに好評であった。高校体験入 学・先輩の話も定着してきており、中学 生にとって高校生活や進路について考 えるよい機会となっている。</p>	<p>○ キャリア教育や様々な体験活動が 進路の選択に役立っていると生徒、保護 者の9割近くに評価されている。これは 6年間を見通しながら連携して教育を行 っている成果である。「ようこそ先輩」 は意識高揚の効果大である。</p> <p>○ 高校生や高校教師との交流から高 校卒業後の目標を考えさせる活動を 継続してほしい。</p> <p>○ 中高一貫校のメリットを生かして 6年間を通しての教育を。個々の能力 に応じて、生徒と担任の間で相談の上 個々に応じた学習を展開する。</p>	<p>○ 進路指導体制の確立をはかり、1 学年から計画的に進路指導を行うと ともに、高校との効果的な連携をは かる。</p> <p>○ 総合的な学習の時間・体験活動 については、これまで同様、6年間 を見通しながら、生徒の実態に沿った 内容で柔軟にプログラムを組むこと が重要である。</p> <p>○ 併設高校に在籍する高校生と語り 合う機会は、高校からの説明をより 具体的に示すものとして好評であり、 今後も継続して実施したい。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>① 質問タイム，補充学習（全学年）， スペシャルアプローチ（3 学年対象） を実施する。</p> <p>② 6年後の目標を持たせる「キャリア 教育」を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 質問タイム，補充学習を定期テスト に合わせて年5回実施した。また、夏 季休業日（8回）・冬季休業日（3回） の質問タイムを実施した。また例年 通り、高校へのスムーズな移行を図 るため、10月以降に週2回のスペシ アルアプローチを実施した。</p> <p>② 1年生は、総合的な学習の時間で 体験学習を実施した。2年生は、もの づくり体験，職業体験などを実施し た。3年生は将来の進路について学 習した。生徒に、これからの自分の 進路を具体的に考える機会となった。</p> <p>③ アンケートにも見られるように、 高校体験入学や高校の先生・先輩の 話は、高校生活をより具体的にとら えることができ,大変好評であった。 また3年生への説明を1学期に、2 年生への説明を2学期に実施した。</p> <p>④ 三者面談（7月），二者面談（4 月，12月）を実施した。その他必 要に応じて適宜家庭訪問を実施した。</p>				

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標		評価指標による達成度	総合評価		
(4) 基本的な生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	① 生徒一人一人の自觉を促し、基本的な生活習慣を身につけさせる。 ② あらゆる教育活動をおとして、きめ細やかな生徒指導を行いいじめ防止等の取り組みに努める。	① 校則や交通ルールの遵守をめざす。特に登下校時の交通事故ゼロに努める。 ② あいさつの励行、90%以上をめざす。 ③ 携帯電話の安全教育について充実を図り、マナー向上や不正使用の問題解決を推進する。 ④ いじめ防止、早期発見に努め、問題の背景や環境要因も考慮し適切な解決に努める。		① アンケート結果 校則、交通ルールに関して生徒93%(昨年93%)保護者95%(昨年95%)が守れていると回答。安全意識は高いが事故は起きている。 ② アンケート結果 生徒67%(昨年76%)、保護者88%(昨年88%)があいさつをよくしていると回答。生徒回答の数値が昨年度を9%下回っている。 ③ 携帯電話に関しては、生徒91%(昨年88%)、保護者82%(昨年82%)が正しく使用していると回答した。使用に関して危機感が感じられない。 ④ アンケートや「至誠ノート」を始め普段の生活状況等を通して担任が注意深く観察し、いじめ早期発見に努める。また、校則違反や問題行動等が見受けられた場合、速やかに保護者に連絡を取り、面談の場を持った。交通事故防止等を集会等で指導するほか、登下校時立哨指導を実施した。	(評定) B ----- (所見) 自転車運転中の自損事故や交通事故が毎年発生している。交通事故は幸いにも重大な事故には至っていないが交通ルールやヘルメット着用の指導を徹底したい。携帯電話やスマートフォンの所持に教員は危機感を持っている。メールやラインを遊びに利用し、様々な問題が発生している。また、JR車中での使用(ゲームを含む)が増加傾向にある。これは学校の指導だけでなく、保護者の協力が不可欠である。中学生集会や、学年集会を利用して、自己肯定感や生命の大切さについて指導した。また、おもしろ半分勝手に写真や動画を掲載することは許される行為ではなく、人権侵害やいじめ等、重大な事件につながる恐れがあることを指導した。さらに規範意識についても指導してゆきたい。	○全国的にメールやラインを利用した様々な問題が発生している。講演会等で専門家からのお話も継続していただくとともに、生徒の小さな変化を見逃さず、対応をお願いしたい。 ○スマートフォンによるメールやライン、近年巧妙になっている有害サイトへの対策を引き続き学校においてもしてほしい。被害の内容なども紹介して強い指導の継続。 ○どの学校にもいえることですが、自転車運転時の事故が多発しています。交通マナーや規則についても学校で指導をお願いします。	○全項目について指導の徹底を図るが、特にあいさつの励行については校外での登校、下校時についても呼びかけをして100%の実施につなげたい。 ○家庭と密接に連携し、安全で安心して生活できる学校づくりを推進していく必要がある。 ○問題行動には携帯電話やスマートフォンを使用したメールのやりとりが多い。そこで、外部機関を利用した携帯電話安全教室のより一層の充実を図り、トラブル防止の徹底をしたい。 また、定期的にアンケート等を実施して生徒の生活状況を把握し、いじめ等の問題行動を未然に防ぎたい。
		活動計画	① 社会や学校のルールやマナーを守り、お互いが気持ちよく安全な生活が送れるようにする。また、自転車通学生のヘルメット着用や並進等を指導し、登下校時の事故やけがの防止に努める。 ② 生徒相互、教職員、来客者に対するあいさつを徹底させる。特に全校集会等で生徒会本部役員とタイアップしてあいさつ運動を推進する。 ③ 外部講師による講話や講習会を毎学期に実施し、トラブル防止を推進する。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室 ・携帯電話安全教室 ④ 生徒指導委員会やいじめ防止対策委員会機能を活性化し、携帯電話の不正使用やいじめ予防教育の推進に努める。	活動計画の実施状況	① 入学者説明会等で、生徒や保護者へ校則の周知徹底を図った。さらに同日、県警サポートセンターによる携帯電話使用の講演を実施した。新入生へのオリエンテーションの実施 毎月の指導週間の実施 JR乗車指導の実施・JR山川駅駐輪場使用状況調査 全校集会後の中学生集会の実施 常時指導の徹底 ② 全校集会後の中学校集会の実施 交通講話の年1回 今年度より犯罪被害者による講演会を実施 自転車点検の実施 ③ 生徒会によるあいさつ運動の実施 毎月の指導週間の実施 外部講師による安全教室の実施 常時指導の徹底 ④ 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室の実施 携帯電話安全教室の実施 薬物乱用防止街頭ヤングキャンペーン参加 非行防止作文、ポスター及び飲酒防止ポスター作成		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
				総合評価			
<p>(5) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進</p>	<p>① 人権教育指導計画の推進と、“あわ”人権学習ハンドブックを活用するとともに人権問題を解決できる生徒の育成に努める。</p> <p>② 人権尊重の意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める。</p>	<p>①「本校の人権学習の内容は適切であり、人権教育は充実している。」と思う生徒の割合、90%以上をめざす。</p> <p>②「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合、90%以上をめざす。</p> <p>③「人権を大切にしている。」と思う保護者の割合、90%以上をめざす。</p>	<p>①アンケート結果 生徒88%、保護者77%が、「生徒は人権学習に積極的に取り組んでいる。」と回答。</p> <p>②アンケート結果 生徒84%、保護者76%が、「生徒は人権について学習したことを日常生活に活かそうとしている。」と回答。</p> <p>③アンケート結果 生徒91%、保護者83%が、「本校では人権を尊重する考え方や態度を育てる教育が行われている。」と回答。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p>	<p>(所見)</p>	<p>○「人権尊重社会の実現を図るために・・・」と題して吉野川市中学校教育研究日頃の取組の一端を見せ意識の高揚に取り組み熱意が伝わってきました。</p> <p>○人権感覚を身につけるため、継続した活動を実施してほしい。</p>	<p>○生徒一人一人とじっくり向き合いながら、人権教育の土台である人間関係づくり・仲間づくりをこれからも継続的にすすめていきたい。すべての教育活動の中で、自分も人も大切に、大切にされる集団をつくっていく取組を日々続けていきたい。</p> <p>○人権教育で学んだことの実践化のために、生徒の実態に合わせ、学習形態をさらに工夫していき、教師自身も研修を重ね、人権感覚を磨いていきたい。</p> <p>○インターネットによる人権侵害の加害者にも被害者にもならないために、さらに学習を深めていく必要性を感じている。</p> <p>○中高の連携をさらに図りながら、合同で学んでいく機会を増やしていきたい。</p> <p>○PTA人権教育講演会など、さらに保護者との連携をとりながら、人権教育を推進する必要がある。</p>
		<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>	<p>-----</p>	<p>本校は、多くの小学校から入学してきているという実態があり、人間関係づくり仲間づくりを大切にしながら、日々実践を重ねている。話し合い活動や表現活動を多く取り入れることで、生徒が主体的に学習に取り組めるような授業形態を工夫している。体験的参加型学習は、生徒が積極的に学んでいくために効果的であった。</p> <p>市人権大会に向けて人権学習を重ねていくなかで、生徒たちは自分の生き方をみつめ、主体的に学んでいこうとする意欲を高めることができた。</p> <p>インターネットと人権侵害について学ぶことで、加害者にも被害者にもならないために、さらに学んでいきたいという意欲を持つことができたようだ。</p> <p>さらに、学習したことがらが態度化・行動化につなげられるような工夫をしていく必要がある。そのために、教職員の研修を充実させるとともに、生徒の校外での研修や外部講師による学習も積極的に取り入れていきたい。</p> <p>中高合同で行っている「人権の日」の校内放送は、視野を広め考えを深めるために役立っている。さらに、高校生と共に学んでいく機会を設けていきたい。</p>		
		<p>① 生徒の実態に即した学習主題を設定し、個別的な視点と普遍的な視点の双方を加味した学習を組み立てていく。また、“あわ”人権学習ハンドブックの活用に努める。</p> <p>② 生徒一人一人を生かし、大切に学ぶ学級づくりを推進する。その中で、いじめは、人権にかかわる重大な問題であり、絶対に許されない行為であることを徹底して指導する。また、よりよい人間関係を築き、コミュニケーション能力を育成するために、体験的参加型学習を多く取り入れる。</p> <p>③ 人権委員会の活性化を図り、生徒が主体的に学んでいこうとする意欲や態度を育成する。</p> <p>④ PTA人権教育推進委員会の活動の活性化を図る。保護者の意見を取り入れながら人権教育を充実させていく。</p>	<p>① 各教科における人権教育年間計画を作成し、授業や学校生活の中で人権教育の推進を図った。</p> <p>・“あわ”人権学習ハンドブックや「わたしの願い」を活用し、普遍的な視点と個別的な視点を結び合わせながら、各学年で共通の内容の学習を進めていった。1年生は「災害時における人権問題」、2、3年生は「同和問題」を中心に学習を進め、思いを伝え合うなかで人権問題を解決しようとする意欲を高めることができた。</p> <p>② 人間関係を築く能力やコミュニケーション能力、他の人の立場に立って考えられるような想像力を培うために、また学んだことへの態度化・行動化につなげるために、生徒の実態を把握するとともに授業形態も工夫した。</p> <p>・学期に1回は生活アンケートを行い、生徒一人一人や学級・学年・学校の実態を把握することに役立てていった。情報モラルに関するアンケートも行い、インターネットによる人権侵害を未然に防ぐための授業を行った。</p> <p>・スクールカウンセラーによる人間関係づくりのワークショップを実施し、協力しながら生徒の指導に生かしている。</p> <p>・生徒が主体的に参加し、体験することで人権感覚を身につけることができるよう、体験的参加型学習を多く取り入れた。</p> <p>・識字学級訪問(2年生 8月)</p> <p>・弘瀬喜代さんによる講演(2、3年生 10月)</p> <p>③ 人権委員会の活性化を図った。</p> <p>・校内人権問題意見発表会を実施(6月)</p> <p>・月1回「人権の日」を設け、中高合同で様々な人権問題について考える時間を持っている。校内放送でも、学んだことや自分たちの思いを全校生徒に向けて発表した。</p> <p>④ PTA人権教育講演会</p> <p>・堀内佳さんによる講演(10月)</p> <p>「いま・しあわせに生きるために・・・」</p>				

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題											
		評価指標			評価指標による達成度													
<p>(6) 心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実</p>	<p>① 学校行事，生徒会活動を通じて生徒の自主性の育成に努める。</p> <p>② ホームルーム活動(学級活動)や部活動のより一層の充実と活性化を図る。</p>	<p>① 学校行事(体育的活動)に積極的に参加するとともに，生徒の自主的な活動をすすめる。</p> <p>② 3年間を見通した学級活動(体験活動)の充実を図る。積極的に部活動への参加を促す。</p>	<p>① アンケート結果 生徒 94%が学校行事に積極的に参加していると回答。保護者 93%が学校行事が適切に行われていると回答。</p> <p>② アンケート結果 生徒 95%，保護者 92%が，体験学習は豊かな心を育むために役立っていると回答。また，部活動に参加している生徒の 88%，保護者 88%が，部活動に積極的に参加していると回答。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>学級や学校の一員として，周囲との望ましい人間関係を形成し，よりよい生活づくりを参画し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てることができた。</p>	<p>○ 忌部の郷めぐりや海洋センターでの自然体験活動，藍染め体験など特色ある学校行事に取り組み，生徒 94%，保護者 93%が高く評価している。「第九」演奏会や部活動にも時間を効果的に活用し成果を上げている。</p> <p>○ 授業へのしわ寄せになり，生徒や教師の負担になっている「第九」合唱の見直し。県立中学校教育の目標と合致していないと考える。参加することは否定していません。</p> <p>○ 中高一貫校のメリットの一つに，中学校と高等学校で部活を通して交流ができることを生かして，積極的に部活動に参加するように促す。</p>	<p>○ 学校行事や生徒会活動，学級活動の目的を再度見直し，さらに充実した学校生活を生徒が送れるよう不断の改善を図っていききたい。</p>												
							<p>活動計画</p> <p>① 目的や運営のあり方を見直し，生徒の実態に応じて学校行事をより充実したものにする。</p> <p>② 各生徒会専門委員会の意義や役割を周知し，生徒の自主的な活動をすすめるため，生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>③ 学校生活や学級における身近な課題をもとに話し合い，自主的・実践的に学級の合意が図れるよう指導する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 学校行事</p> <table border="0"> <tr><td>入学式</td><td>4月</td></tr> <tr><td>忌部の郷めぐり</td><td>4月</td></tr> <tr><td>YMCA(1年)</td><td>6月</td></tr> <tr><td>藍染め体験(2年)</td><td>8月</td></tr> <tr><td>体育祭，文化祭</td><td>9月</td></tr> <tr><td>修学旅行(3年)</td><td>10月</td></tr> </table> <p>② 専門委員会 専門委員会を実施し，呼びかけや活動について，中学生集会で全校に周知徹底した。</p> <p>③ 特別活動の各領域を通じて，望ましい人間関係を形成し，集団や社会の一員としてよりよい学習生活づくりに参画しようとする態度を育てることができた。また，生徒が学校や学級への所属感や連帯感を深め，協力して諸問題を解決し，よりよい学校，学校生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てることができた。</p>	入学式	4月	忌部の郷めぐり	4月	YMCA(1年)	6月	藍染め体験(2年)	8月	体育祭，文化祭	9月
		入学式	4月															
		忌部の郷めぐり	4月															
YMCA(1年)	6月																	
藍染め体験(2年)	8月																	
体育祭，文化祭	9月																	
修学旅行(3年)	10月																	

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
						総合評価	
						(評定) B	

						(所見) 「清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」と答えた生徒は、目標値には達しなかったが、昨年度より7ポイント上がった。 国際理解教育において、「世界の中の日本」「日本との文化や考え方の相違」を知ること、自分の行動について考えを深める機会とした。	
		活動計画			活動計画の実施状況		
						○電気使用量のグラフ化や節水状況の調査など、実践的な環境教育に取り組んでいる。国際交流は、自分たちの文化を発信する力やコミュニケーション能力を年間計画で育成してほしい。台湾の生徒たちとの手紙の交換は素晴らしい。 ○語学向上を目的とした交流を実施してほしい。 ○国際的に地球温暖化が問題になっていいます。温暖化防止対策はすぐに取り組めるものもあれば、時間がかかるものもあります。身の回りで取り組むことができることから実践してほしい。	
(7) 環境教育及び国際理解教育の推進	<p>①新学校版環境ISOに取り組むなど環境保全活動に努める。</p> <p>②国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。</p>	<p>①新学校版環境ISO認証校として、清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、「ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答する生徒の割合、80%以上をめざす。また、電気、水道の使用量については、前年度より増えないようにする。</p> <p>②海外語学研修現地校の来校に向け、自他の文化への理解を深めるなど、生徒が積極的に交流できるように適切な指導と準備と行う。</p>	<p>①アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新学校版環境ISO認証校として、清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答する生徒の割合は74%で、昨年よりも7ポイント高くなった。しかし、電気、水道の使用量とも、猛暑や漏水のため、昨年度より増えた。 <p>②国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語学研修の現地校の生徒と教員が来校。85%の生徒が国際的視野を広げるのに役立ったと回答している。 		<p>○電気使用量のグラフ化や節水状況の調査など、実践的な環境教育に取り組んでいる。国際交流は、自分たちの文化を発信する力やコミュニケーション能力を年間計画で育成してほしい。台湾の生徒たちとの手紙の交換は素晴らしい。</p> <p>○語学向上を目的とした交流を実施してほしい。</p> <p>○国際的に地球温暖化が問題になっていいます。温暖化防止対策はすぐに取り組めるものもあれば、時間がかかるものもあります。身の回りで取り組むことができることから実践してほしい。</p>	<p>○電気使用量の揭示や清掃時の音楽など、今年始めたことを継続しながらも、生徒が「新学校版環境ISO」についての理解を深め、行動に移せるように、環境委員会を中心に、活動内容の工夫をさらに図りたい。</p> <p>○国際交流の充実を図ることは、日本に生きる自分の立ち位置を知ることでもあるので、「交流会」ではなく「知る」活動をどのように取り入れていくのが課題である。</p>	
						<p>○電気使用量のグラフ化や節水状況の調査など、実践的な環境教育に取り組んでいる。国際交流は、自分たちの文化を発信する力やコミュニケーション能力を年間計画で育成してほしい。台湾の生徒たちとの手紙の交換は素晴らしい。</p> <p>○語学向上を目的とした交流を実施してほしい。</p> <p>○国際的に地球温暖化が問題になっていいます。温暖化防止対策はすぐに取り組めるものもあれば、時間がかかるものもあります。身の回りで取り組むことができることから実践してほしい。</p>	
						<p>○電気使用量の揭示や清掃時の音楽など、今年始めたことを継続しながらも、生徒が「新学校版環境ISO」についての理解を深め、行動に移せるように、環境委員会を中心に、活動内容の工夫をさらに図りたい。</p> <p>○国際交流の充実を図ることは、日本に生きる自分の立ち位置を知ることでもあるので、「交流会」ではなく「知る」活動をどのように取り入れていくのが課題である。</p>	

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(8) 開かれた学校づくりと安全教育の推進</p>	<p>① 地域貢献活動等などの活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実を図り、家庭や地域の連携を深めるとともに、外部評価結果を活かす取り組みの推進。 ② 地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 参観日や学校行事等、保護者が学校に来る機会をできるだけ多く設けるとともに、「参観日や学校公開の日など、保護者が学校に来る機会が多くある」と思う生徒及び保護者の割合、80%以上をめざす。 ② ホームページやメール配信により学校の様子を伝える。「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている」と思う保護者の割合、80%以上をめざす。 ③ 防災避難訓練に真剣に取り組んでいる生徒の割合、80%以上をめざす。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>① アンケート結果 生徒 81%、保護者 92%が、「参観日や学校公開の日など、保護者が学校に来る機会が多くある。」と回答している。 ② アンケート結果 保護者 82%が、「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている。」と回答している。 ③ 生徒の取組状況はおおむね良好であり、積極的に活動することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>評価指標①②ともに目標値は達成できたが、「参観日や学校公開の日など、保護者が学校に来る機会が多くある。」は5ポイント、「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている。」は3ポイント減の保護者の回答となっている。</p>	<p>○ 中高一貫教育見学会や入学者募集説明会の参加者が増加したことは、日頃の取組に対して評価をいただいている結果である。薬物乱用防止教室や AED 講習会など外部講師を活用し、安全教育を継続することは大切である。</p> <p>○ 保護者が学校行事を見学できる機会を、これからも設けてほしい。ホームページでの積極的な情報発信をしてほしい。</p> <p>○ ホームページの充実を図り、本校のいいところを発信することが大切である。また、他の中学にはできない本校ならではの取組をアピールする。</p>	<p>○ 数値目標は高いところで達成できているものの、いずれも、昨年度に比べて数ポイントずつ減少している。本校の特色ある教育をさらに進めていかなければならない。</p> <p>○ ホームページの更新をもっと早くするために、教師全員が更新に関わるように教師のスキルをさらに高めたい。</p> <p>○ 本校の伝統である保護者の参観日の出席率の高さを維持していくため、教師がさらに魅力ある授業を展開していかなければならない。</p> <p>○ 防災学習をカリキュラムの中に適切に位置づけ、より効果的な学習が行われるよう工夫していきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>① 保護者や地域に開かれた学校づくりとして、授業参観、学年部会、中高一貫教育懇談会等を開催する。</p> <p>② 専門的な知識や技能を有する地域の方を招聘しての学びの機会をさらに増やすことにより、多様な学習活動の充実と地域の方の本校教育への理解を深める。</p> <p>③ 本校の特色を地域に理解してもらうため、パンフレットなどを作成し、近隣小学校に配布するとともに、小学校保護者を対象とした説明会を実施する。また、ホームページも充実する。</p> <p>④ 小学6年生とその保護者を対象とした入学者募集説明会を実施する。</p> <p>⑤ 防災避難訓練にあたっての事前、事後指導の徹底をはかり、総合的な学習の時間で防災を扱う。</p> <p>⑥ 防災クラブの活動の活性化を図るための取り組みを行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 授業参観3回、参加率69%程度 中高一貫教育見学会(7月) 参加者134名 とくしま教育の日(11月) 学年部会(5月) 高校説明会 3学年対象(7月) 高校説明会 2学年対象(10月) ② 外部講師を招いての主な授業 薬物乱用防止教室 全学年4月(2名) 携帯電話安全教室 全学年4月(1名) AED講習会 全学年5月(5名) 人間関係ワークショップ 1年6月2年2月(1名) 災害について考えよう 1年7月(1名) 防災ワークショップ 1年7月(1名) 防災講演会 1年10月(1名) 先輩から学ぶ 2年10月(8名) 人権問題講演会 2・3年10月(1名) 思春期学習講座 3年11月(2名) 教えて先輩教えて先生 3年2月(約50名) 第九合唱練習 7月～1月 計8回(13名) 他</p> <p>③ パンフレットを作成し、近隣の小学校に配布するとともに、訪問説明会を19校で実施した。また、ホームページの更新や、メール配信を随時行うことにより、学校の様子を保護者に伝えた。</p> <p>④ 10月に実施、参加者102名。その時に企画広報委員会で作成した広報誌「絆」も配布した。</p> <p>⑤ 中高合同の避難訓練(2回)やJアラート訓練など、生徒は積極的に参加し、学年単位で防災に関する授業を行った。防災講演会などの活動を通して、全校生徒、保護者の防災・減災への意識の向上を図った。</p> <p>⑥ 校舎避難経路の危険箇所の確認、防災講演会や防災研修会、地域防災訓練等に参加した。</p>	<p>授業参観の参加率は昨年度に比べ10ポイントと大幅に減少した、これは昨年度1年生の参加率が非常に高かった反動が大きい、全体的に参加者が減少傾向にある。</p> <p>中高一貫教育見学会の参加者は昨年に比べて29名増となった、入学者募集説明会の参加者も6名増であった。これは昨年度の参加者が例年に比べて少なかったからである。</p>		
		<p>① 保護者や地域に開かれた学校づくりとして、授業参観、学年部会、中高一貫教育懇談会等を開催する。</p> <p>② 専門的な知識や技能を有する地域の方を招聘しての学びの機会をさらに増やすことにより、多様な学習活動の充実と地域の方の本校教育への理解を深める。</p> <p>③ 本校の特色を地域に理解してもらうため、パンフレットなどを作成し、近隣小学校に配布するとともに、小学校保護者を対象とした説明会を実施する。また、ホームページも充実する。</p> <p>④ 小学6年生とその保護者を対象とした入学者募集説明会を実施する。</p> <p>⑤ 防災避難訓練にあたっての事前、事後指導の徹底をはかり、総合的な学習の時間で防災を扱う。</p> <p>⑥ 防災クラブの活動の活性化を図るための取り組みを行う。</p>	<p>① 授業参観3回、参加率69%程度 中高一貫教育見学会(7月) 参加者134名 とくしま教育の日(11月) 学年部会(5月) 高校説明会 3学年対象(7月) 高校説明会 2学年対象(10月) ② 外部講師を招いての主な授業 薬物乱用防止教室 全学年4月(2名) 携帯電話安全教室 全学年4月(1名) AED講習会 全学年5月(5名) 人間関係ワークショップ 1年6月2年2月(1名) 災害について考えよう 1年7月(1名) 防災ワークショップ 1年7月(1名) 防災講演会 1年10月(1名) 先輩から学ぶ 2年10月(8名) 人権問題講演会 2・3年10月(1名) 思春期学習講座 3年11月(2名) 教えて先輩教えて先生 3年2月(約50名) 第九合唱練習 7月～1月 計8回(13名) 他</p> <p>③ パンフレットを作成し、近隣の小学校に配布するとともに、訪問説明会を19校で実施した。また、ホームページの更新や、メール配信を随時行うことにより、学校の様子を保護者に伝えた。</p> <p>④ 10月に実施、参加者102名。その時に企画広報委員会で作成した広報誌「絆」も配布した。</p> <p>⑤ 中高合同の避難訓練(2回)やJアラート訓練など、生徒は積極的に参加し、学年単位で防災に関する授業を行った。防災講演会などの活動を通して、全校生徒、保護者の防災・減災への意識の向上を図った。</p> <p>⑥ 校舎避難経路の危険箇所の確認、防災講演会や防災研修会、地域防災訓練等に参加した。</p>	<p>授業参観の参加率は昨年度に比べ10ポイントと大幅に減少した、これは昨年度1年生の参加率が非常に高かった反動が大きい、全体的に参加者が減少傾向にある。</p> <p>中高一貫教育見学会の参加者は昨年に比べて29名増となった、入学者募集説明会の参加者も6名増であった。これは昨年度の参加者が例年に比べて少なかったからである。</p>		
		<p>① 保護者や地域に開かれた学校づくりとして、授業参観、学年部会、中高一貫教育懇談会等を開催する。</p> <p>② 専門的な知識や技能を有する地域の方を招聘しての学びの機会をさらに増やすことにより、多様な学習活動の充実と地域の方の本校教育への理解を深める。</p> <p>③ 本校の特色を地域に理解してもらうため、パンフレットなどを作成し、近隣小学校に配布するとともに、小学校保護者を対象とした説明会を実施する。また、ホームページも充実する。</p> <p>④ 小学6年生とその保護者を対象とした入学者募集説明会を実施する。</p> <p>⑤ 防災避難訓練にあたっての事前、事後指導の徹底をはかり、総合的な学習の時間で防災を扱う。</p> <p>⑥ 防災クラブの活動の活性化を図るための取り組みを行う。</p>	<p>① 授業参観3回、参加率69%程度 中高一貫教育見学会(7月) 参加者134名 とくしま教育の日(11月) 学年部会(5月) 高校説明会 3学年対象(7月) 高校説明会 2学年対象(10月) ② 外部講師を招いての主な授業 薬物乱用防止教室 全学年4月(2名) 携帯電話安全教室 全学年4月(1名) AED講習会 全学年5月(5名) 人間関係ワークショップ 1年6月2年2月(1名) 災害について考えよう 1年7月(1名) 防災ワークショップ 1年7月(1名) 防災講演会 1年10月(1名) 先輩から学ぶ 2年10月(8名) 人権問題講演会 2・3年10月(1名) 思春期学習講座 3年11月(2名) 教えて先輩教えて先生 3年2月(約50名) 第九合唱練習 7月～1月 計8回(13名) 他</p> <p>③ パンフレットを作成し、近隣の小学校に配布するとともに、訪問説明会を19校で実施した。また、ホームページの更新や、メール配信を随時行うことにより、学校の様子を保護者に伝えた。</p> <p>④ 10月に実施、参加者102名。その時に企画広報委員会で作成した広報誌「絆」も配布した。</p> <p>⑤ 中高合同の避難訓練(2回)やJアラート訓練など、生徒は積極的に参加し、学年単位で防災に関する授業を行った。防災講演会などの活動を通して、全校生徒、保護者の防災・減災への意識の向上を図った。</p> <p>⑥ 校舎避難経路の危険箇所の確認、防災講演会や防災研修会、地域防災訓練等に参加した。</p>	<p>授業参観の参加率は昨年度に比べ10ポイントと大幅に減少した、これは昨年度1年生の参加率が非常に高かった反動が大きい、全体的に参加者が減少傾向にある。</p> <p>中高一貫教育見学会の参加者は昨年に比べて29名増となった、入学者募集説明会の参加者も6名増であった。これは昨年度の参加者が例年に比べて少なかったからである。</p>		